

福島ダイアログ

福島第一原発事故のあとで：記憶を残し、経験を共有し、あたらしい未来へ向かうために

～国際放射線防護委員会（ICRP）の協力による対話の継続～

【日時・場所】

12月15日（土曜日） 16日（日曜日）

（両日とも参加自由、参加費無料）

東日本国際大学 1号館 101 教室

※いわき駅から徒歩15分 駐車スペース約100台あり



キャンパスマップ



懇親会会場：東日本国際大学 食堂

【共催】国際放射線防護委員会（ICRP）、福島ダイアログ実行委員会、
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）

【協賛】日本保健物理学会（JHPS）

2018/12/04

【参加団体】

福島のエートス、フランス放射線防護原子力安全研究所(IRSN)、フランス原子力防護評価センター(CEPN)、経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)、ノルウェー放射線防護庁(NRPA)、福島県立医科大学、広島大学、長崎大学、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(QST)、国立研究開発法人国立環境研究所(NIES)

【同時通訳】 Hirano Co. Ltd

* 福島相双復興推進機構「平成30年度 地域経済産業活性化対策費補助金」対象事業

【お知らせ】

本ダイアログは、ビデオの記録を残し、許可を得た上でネット上に公開することを予定しております。公開を希望されない方は、ethos.fukushima@gmail.comまでお知らせください。

【目的】

福島第一原子力発電所事故から七年以上が経過した。事故による直接的な影響を受けた人々の間でも、しだいに事故の記憶はうすれはじめている。このことは日本や国外においても、事故に直接巻き込まれることがなかった人たちについては、特に顕著である。

今回のダイアログセミナーの目的は、事故の教訓のみならずその帰結を含めた事故の記憶に命を吹き込むため、各地域、国内、国際的に行われて来た活動を共有することである。これはまた、現在の世代と次の世代とで事故の経験の共有と伝承を行ない、事故後の新しい未来にむかっていく今後のさらなる動きについて考えることにもなるだろう。

【日程：1日目】

12月15日(土)

8:45～ 受付開始

セッション1：背景共有—なぜ、そしてなにを私たちは共有し、伝えるのか

9:15～9:20 開会の挨拶 (ジャック・ロシャール、ICRP)

9:20～9:40 なぜ事故の記憶の伝承について考えるのか
(安東量子、福島ダイアログ実行委員会)

9:40～10:00 南相馬市で暮らしてきて (高村美春：南相馬市)

10:00～10:40 川俣町山木屋と双葉町細谷地区の交流 (大橋庸一：双葉町、菅野源勝：川俣町)

2018/12/04

10:40～11:10 コーヒーブレイク/ポスターセッション (JAEA、QST、NIES)

11:10～11:30 地元企業の観点から (吉岡正士：アルパイン (株))

11:30～11:50 若い世代の観点から (佐藤秀人：伊達市)

11:50～13:00 昼食

セッション2：ワークショップ

13:00～13:10 セッションの趣旨説明

(黒田佑次郎：福島ダイアログ実行委員会)

13:10～15:10 ワークショップ

・参加者を3つのグループにわけ、各グループのファシリテーター (1人) が議論を進行する。

グループA：帰還困難区域 グループB：避難指示解除区域

グループC：保健医療・学校

[テーマ] **なぜ、なにを私たちは共有すべきか？**

15:10～15:50 コーヒーブレイク/ポスターセッション (JAEA、QST、NIES)

15:50～16:50 各グループの内容発表と議論

16:50 今日の締めくくり (ジャック・ロシャール)

17:30～ 懇親会 (参加費無料、参加自由)

会場：東日本国際大学 食堂

【日程：2日目】

12月16日 (日)

8:45～ 受付開始

セッション3：どのように経験を共有し、伝えるか？

9:15～9:20 開会の挨拶 (ジャック・ロシャール)

9:20～9:40 昨日の議論の振り返り (安東量子)

9:40～10:00 ベラルーシでの CORE プログラムの経験 (ティエリー・シュナイダー、CEPN)

10:00～10:20 ノルウェーの経験 (アストリッド・リーランド：NRPA)

10:20～10:40 専門機関の観点から (植頭康裕：JAEA)

10:40～11:10 コーヒーブレイク/ポスターセッション (JAEA、QST、NIES)

2018/12/04

- 11:10～11:30 被災地の外に住む住民の観点から(石森真理：広島大学)
- 11:30～11:50 地元で活動する観点から(下枝浩徳：葛尾村)
- 11:50～12:10 高校教員の観点から(原尚志：福島高校)
- 12:10～13:10 昼食

セッション4：前へ向かって進むために

13:10～15:10 ダイアログ「私たちは、事故とその帰結の記憶を残すためになにを生み出すべきか。さまざまな人びととなにを分かち合うべきか。次の世代になにを伝えるべきか」

参加者：石森真理、下枝浩徳、原尚志、吉岡正士、半谷八重子、門馬麻衣子、遠藤眞也、高村美春、遠藤佑哉、神藤俊夫、クリス・クレメント、テッド・ラゾ

15:10～15:40 コーヒーブレイク/ポスターセッション (JAEA、QST、NIES)

15:40～16:00 ダイアログの内容まとめ (ジャン＝フランソワ・ルコント:IRSN)

16:00～16:30 まとめの議論

16:30～16:45 締めくくりの言葉 (ジャック・ロシャール：ICRP)

16:45～16:55 終わりの挨拶 (中山真一：JAEA)

16:55 ダイアログセミナー終了

(お帰りの際は、名札と通訳機の返却をお願いします。)

ダイアログセミナーの資料は、後日、福島のエートスサイトで公開する予定です。

次回ダイアログは、詳細が決まりましたら、福島のエートスサイトで告知いたします。

<http://ethos-fukushima.blogspot.jp>